

2003年12月 日

大阪府教育委員会  
文化財保護課長殿

旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会  
代表 小田 康德  
(大阪電気通信大学教授)

## 要 望 書

一、大阪市天王寺区旧真田山陸軍墓地内納骨堂および管理棟を登録文化財として認定していただきたい。

大阪市天王寺区に今も残る旧真田山陸軍墓地は、戦前陸軍が日本の内外につくった多数の陸軍墓地のうち最古のものであり、規模も大きく、また陸軍墓地としての形状を現在までよく残している点においてたいへん貴重な存在です。

また、この墓地は、かつて第四師団司令部や第八連隊あるいは大阪砲兵工廠など軍の中核施設が建ち並んでいた大阪市内にあって、その歴史を今に伝える遺跡ともなっています。

この墓地には、日本陸軍草創期の明治4（1871）年以来ここに葬られた5299基以上の個人墓碑、日露戦争・満州事変の合葬墓碑および日中戦争開始以来4万3千人以上といわれる戦死者の遺骨を納めた納骨堂および管理棟があります。

この墓地に立てば、戦前日本の軍隊と戦争が、いかに多くの人びとの死の上に成り立っていたか、無言のうちに語りかけているようです。ここには今も多くの遺族の参詣があります。

納骨堂は、当初は「仮忠霊堂」と称され、大阪師団関係の戦死者の遺骨をここに合葬する施設として昭和18（1943）年8月25日大阪府仏教会から陸軍に献納され、仏式により分骨合祀祭が執行された施設でした。戦局の推移とともに急激にその数を増やしつつあった戦病死者の納骨施設として軍からも重視された施設であったものです。

納骨堂および管理棟（昭和30年ごろ建築）は、その建築様式にも歴史的に見て貴重な特徴を有していることが、専門家から指摘されています。

以上、旧真田山陸軍墓地内の納骨堂および管理棟を登録文化財として指定していただきたく申請する所以です。